

中学校事例1

心を伝え合う豊かなコミュニケーション

三田市立ゆりのき台中学校第2学年

1 テーマ

心を伝え合う豊かなコミュニケーション

2 実践のねらい

- ・自分の気持ちや考えを適切に伝える力を育み、他者と関わり合う力を身につける。
- ・他者を認め、互いに尊重し合い、望ましい人間関係を築く力を身につける。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

三田市は、人口増加率7年連続日本一の記録をもつ、急激に人口が増えた市である。創立15周年を迎えた本校は、ニュータウン開発により生まれた最後の中学校で、年々生徒数も増加の一途をたどり、現在970名（29学級）の生徒が在籍している大規模校である。

「キモイ」「キショイ」「うせろ」といった言葉を感情的に相手に投げつけたり、自分の気持ちや考えを適切に表現することが苦手な生徒も多く、友だちとの関わり合いの中で、傷つくケースも多い。こうした状況に危機感を持ち、自他の存在（命）を大切にすることを育む必要性を強く感じるようになった。そこで、他者と関わり合う力を高め、自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力を身につけ、望ましい人間関係を築く力を育成することをねらいとして本実践に取り組んだ。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・心がつながる体験をとおして、信頼し合うことの喜びを感じさせる。

【感性を育む】

- ・自分の素直な気持ちをきちんと伝え、それを受け止めてもらう満足感を感じさせる。

【想像力の育成】

- ・自分の素直な気持ちをもとに、相手の立場に立って相手の心情を考えさせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・コミュニケーションに関する研修会に参加し、自身を振り返ったり知識を広めたりする。
- ・学年会議の実施（週1回）をとおして、教員間の情報交換を図る。
- ・生徒の状況を把握し、生徒の実態に応じた関連資料の収集に努める。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・道徳の授業
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高めておく。

(4) 家庭・地域との連携

5 本校の実践の特色（学習・体験の内容）

本校では、道徳・特別活動・総合的な学習の時間の3領域の時間を、教育課程の中で有機的に関連させている。特に、道徳と総合的な学習の時間とのタイアップを試みており、「トライやる・ウィーク」で学んだことを基盤に、「共生」から「進路」へと発展させている。これは、自

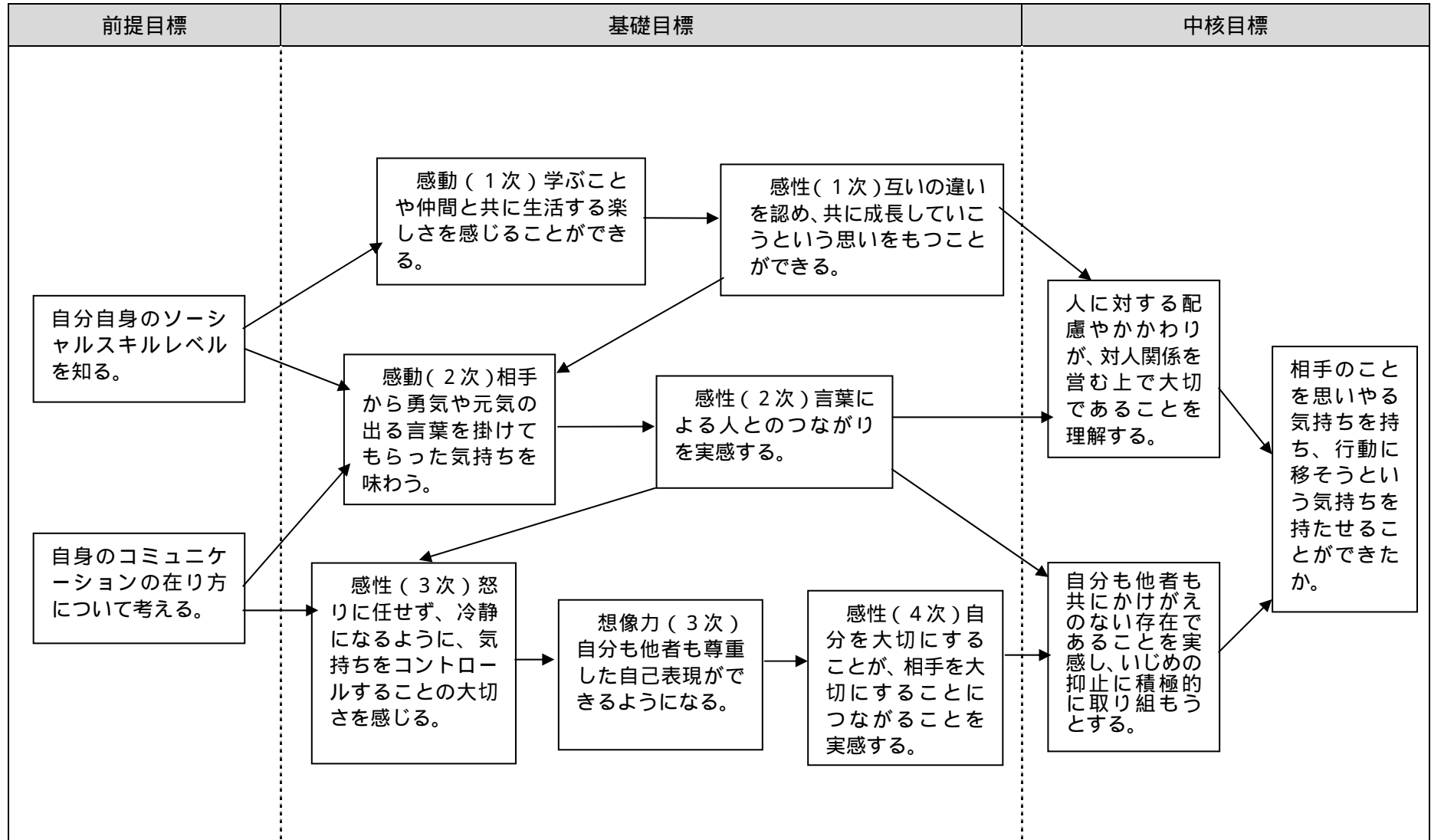
分の周りにいる多くの人が働いて社会を支えていることを生徒が理解し、自分の生き方を考えることへとつなげることをねらいとしている。

また、多くの人に支えられて生きている自分を実感することをおして、自分自身を大切にするとともに、周りの人も大切にすることをめざしている。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	日常の行動を振り返るアンケートに記入する。	自分自身のスキルレベルを知る。	自身のコミュニケーションの在り方について考える。	スキルレベルを上げるために必要なことについて考える。	
1次 (4時間)	望ましい集団づくりを体験する。仲間意識を育てる体験をする。学校で学ぶことの意義を考える。「おしゃべりゲーム」とおして、広い心で人の気持ちを理解し、自分と異なる立場を大切にしようとする態度を養う。	学ぶことや仲間と共に生活する楽しさを感じることができる。相手を知り、また自分を知ってもらうことの心地よさを実感する。	互いの違いを認め、共に成長していこうという思いをもつことができる。人には伝えたい人がいるから、伝えたいことがあるから、対話や会話が成立するのを感じる。	世界中には、満足に学校に行けない子どもたちがいることを知り、その生活を想像することができる。コミュニケーションを円滑にするために、何が必要であるかを考えることができる。	班で協力することの意味を感じさせることができたか。相手を知り、自分を知ってもらうことの心地よさを実感させることができたか。
2次 (3時間)	人にはいろいろな感情があることを理解する。「元気や勇気の出る言葉を掛け合おう」を行い、相手の感情に対して、自分の気持ちの伝え方を考える。絵本「おれはティラノサウルスだ」を読んで、相手に気持ちを伝えることの意味を考える。	周りの人の言動が、自分自身の感情にも影響を与えていることに気づく。相手から勇気や元気の出る言葉を掛けてもらった気持ちを味わう。2頭の恐竜の優しさに気づく。	人には言葉だけでなく、行動にも感情があることを知る。言葉による人とのつながりを実感する。思いを伝えられなかった2頭の恐竜に共感する。	表情画から、感情を想像できる。生活の中のいろいろな場面で、相手に対する言葉の掛け方を考える。自身の生活を振り返り、伝えられなかった言葉を思い起こすことができる。	人には多様な感情があることに気づかせることができたか。人からの言葉掛けで、気持ちに変化することを実感させることができたか。言葉が人と人とのつながりに重要な働きをすることを感じさせることができたか。
3次 (2時間)	ストレスマネジメントを体験する。アサーション・トレーニングを行う。	学校生活での様々な体験により引き起こされる感情を、自分でコントロールできることを実感できる。多様な場면을体験することにより、様々な感じ方や見方ができることに気づく。	怒りに任せず、冷静になるように、気持ちをコントロールすることの大切さを感じる。人とのよい関係を築くためには、他者を思いやる気持ちが大切であることを感じる。	自分の話し方が人からどのように受けとめられているか想像することができる。自分も他者も尊重した自己表現ができるようになる。	思いに任せる行為が、予期しない結果を招くことに気づかせることができたか。感情に流されず、自分の気持ちをコントロールできることを実感させることができたか。
4次 (1時間)	いじめ側の「軽い気持ち」が相手には「大きな苦しみ」となることを理解する。	いじめられている生徒の辛さ、悲しさを知る。相手のことを思いやる気持ちを持ち、行動に移そうという気持ちを持つことができる。	自分を大切にすることが、相手を大切にすることにつながることを実感する。人に対する配慮やかかわりが、対人関係を営む上で大切であることを理解する。	自分も他者も共にかけがえのない存在であることを実感し、いじめの抑止に積極的に取り組もうとする。いじめについて、これまでの自分を振り返ることから、いじめをなくすために、自分は何をするべきなのかを考える。	自他のかけがえのなさを実感させることができたか。相手のことを思いやる気持ちを持ち、行動に移そうという気持ちを持たせることができたか。

7 目標構造図



(凡例) 感性(1次):「 」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「(1次)」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	生徒の実態を把握する。 ・生徒のソーシャル・スキルに関する調査結果を分析する。
b	集団作りや生徒の仲間意識を高めるための研修 ・構成的グループ・エンカウンターの技法を活用
c	コミュニケーション能力を高めるための研修 ・自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力、他者の気持ちを受け止める力を身につける。
d	ストレスマネジメントについての研修 ・リラクゼーション、呼吸法等

(2) 指導の概要（全10時間）

	内 容	
事前	日常の行動を振り返るアンケートを実施する。	教員研修 a
1次 (4時間)	1 構成的グループ・エンカウンターを活用して望ましい集団作りと仲間意識を育てる。 ・「みんなで気持ちを合わせれば」 ・「私をととえと」	教員研修 b
	2 『世界がもし100人の村だったら』(池田香代子)を活用して、学校で学ぶことの意義を考えさせる。 ・学校に通うことによって、知識を身につけ、友だちを見つけ、多くの人に囲まれ、人として成長するとはどういうことかについて考える。	(1時間)
	3 「おしゃべりゲーム」を行う。 ・広い心で人の気持ちや立場を理解し、自分と異なる立場を大切にしようとする態度を養う。	(2時間)
2次 (3時間)	1 人にはいろいろな感情があることを理解する。 ・1つの表現にも、人それぞれ感じ方が異なることを知る。 ・感情を表現する方法を学習する。	教員研修 c
	2 「元気や勇気の出る言葉を掛け合おう」を行う。 ・言葉のかけ方について考える。 ・相手の感情に対して、自分の気持ちの伝え方を考える。	(1時間)
	3 絵本『おれはティラノサウルス』(宮西達也作・絵)を使って、相手に気持ちを伝えることの意味を考える。 ・お互いそれぞれ相手を思いやる気持ちがありながら、その思いを伝えられなかった2頭の恐竜の気持ちを考える。 ・相手に言葉を伝えることが人と人をつなぐことに気づく。 ・相手を大切にすることについて考える。	(1時間)

<p>3次 (2時間)</p>	<p>1 ストレスマネジメントを体験する。 (1時間) ・怒り等の自己感情をコントロールする方法について知る。 (リラクゼーション、呼吸法等) 教員研修 d</p> <p>2 アサーション・トレーニングを行う。 (1時間) ・自分の気持ちを尊重した言い方や行動について学ぶ。 ・人からの誘惑や仲間からのプレッシャーを断る言い方を身につける。 「断りにくいことを友だちから言われたら、あなたはどうしますか？」</p>
<p>4次 (1時間)</p>	<p>1 いじめの問題をとおり、自分も相手も大切な存在であることを知る。 ・教師が演じる「いじめ」をテーマにした劇を見る。 ・いじめられた生徒の気持ちをもとに、自分自身がどのようにいじめを考えていたかを振り返る。 ・新聞記事を読んで、いじめを許さない集団をつくるために、自分たちが何をすべきかを考える。</p>
<p>事後</p>	<p>振り返りカードに記入する。 日常の行動を振り返るアンケートを実施する。</p>

9 指導実践

(1) 2次第1時

ア 本時のねらい

人にはいろいろな感情があるということを理解する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

周りの人の言動が、自分自身の感情に影響を与えていることに気づかせる。

(イ) 感性を育む

言葉だけでなく、表情やしぐさ等の行動にも感情が込められていることを理解させる。

(ウ) 想像力の育成

会話などをとおして、他者の考えや思いを感じ取る力を身につけさせる。

ウ 準備物

表情絵ポスター「いま、どんなきもち？」(大阪人権教育研究協議会作成)、ワークシート、「授業を終えて」のプリント

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 表情ポスター(大阪府人権教育研究協議会作成)活用に向けて話し合う。

(イ) 生徒の実態を把握し、感情の表現が苦手な生徒への関わりについて話し合う。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 昨日一日、心に残っている感情や気持ちとその理由を思い出す。	・何気なく過ごしている一日、意外と忘れていたり、こだわっている感情や気持ちがあったりすることに気づかせる。
	2 感情を表現した1枚の表情画を見て、状況や感情を言葉で表現する(ワークシートに記入)。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">表情画は、どのような時の、どんな気持ちなのかを考えてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・部活の試合で勝った時「わあー、やった！」 ・定期テストで勉強したことが出た時「ラッキー！」 ・誕生日に友だちからプレゼントをもらった時「もらっていいの？」 	・1つの表現にもいろいろな感情があることに気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの感情を表現する言葉を記入させて、感情の多様さに気づかせる。
展 開	3 班内で発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・困惑 定期テストで問題が全くできなかった時 「あーわからない。」 ・怒り お母さんに勉強しなさいと言われた時 「わかってるよ、言うなよ。」 ・内気 みんなの前で自己紹介する時 「恥ずかしい、うまく言えるかな。」 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">表情画は、どのような時のどんな気持ちなのか発表しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人の意見を聞きながら、相違点や共通点を確認させる。 ・1つの感情表現も、人それぞれ受けとめ方が違うことに気づかせる。 ・様々な感情の表現があることに気づかせる。

ま と め	<p>4 「授業を終えて」のプリントに感想を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの表情でも、人によっていろいろ違うということがわかった。 ・自分の生活を見直してみると、人に対していろんな感情を出していることがわかった。 ・みんなの意見を聞いていると、「おんなじ気持ち」「わかるわかる」という気がした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや思ったことを自由に書かせる。
-------------	---	---

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) ネガティブな感情を持つことが悪いことではなく、その感情をどう自分自身の中で受け入れるかを考えさせる必要があった。
- (イ) 人の感じ方にはいろいろあることを知るだけでなく、一歩進めて気持ちを聞いてもらうことの心地よさを感じさせる体験が必要であった。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感 動 の 体 験	人にはいろいろな感情があることに気づきましたか。	
感 性 を 育 む	一つの感情表現も、人それぞれ受けとめ方が違うことに気づきましたか。	
想 像 力 の 育 成	自分の感情に気づき、感情を言葉に置き換えることの大切さについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

いま、どんなきもち?



ちえっ



えっへん



えっ!!



びびり



ほー



おんてやわん!



くそー



うきうき



ぐん



ホーッと



やったー!



ボーン



ほんわか



うじうじ



ムわっ



いやあ...

大阪府人権教育研究協議会

(2) 2次第2時

ア 本時のねらい

相手に対して、適切な言葉で気持ちを伝えることの大切さに気づく。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

相手から勇気や元気の出る言葉をかけてもらった気持ちを味わわせる。

(イ) 感性を育む

言葉による人とのつながりを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

生活の中でのいろいろな場面で、相手に対する言葉のかけ方を考えさせる。

ウ 準備物 ワークシート

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) コミュニケーション能力を高める研修

- ・ 廣岡秀一『朝日小学生新聞 - 言い方・聞き方学習室 こんなときどうする?』を使って、様々な言い方や聞き方によって受け止め方が変わることを体験する。

(イ) 前時の感想から、表現が苦手な生徒がどのように感じていたかを把握しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 言葉が心に影響を与えることについて考える。	・「おいしい栄養のあるものを食べると心も体も元気が出るように、プラスの言葉をもらおうと元気が出てくるよね。反対に腐ったものを食べると、気分が悪くなって、戻したり下痢をして、体から一生懸命に出そうとするのと同じように、いやな言葉を食べるとそんな風になっちゃうよね。言葉も毎日食べてるんだよ。」
展 開	2 会話をとおして、受け止め方の違いについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> Aさんが「財布をなくした。」とBさんに言いました。Bさんは何と言ったでしょう? </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ いくら入っていたの? ・ 泣きたいよね。 ・ 最悪だね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「どこで落としたの?」と財布のことについて言葉をかける場合があることに気づかせる。 ・ 「辛かったでしょう?」と財布を落とした人の気持ちに共感した言葉をかける場合があることに気づかせる。 ・ 言い方によって、受け止め方が異なることに気づかせる。

展開	<p>中間考査の結果が返ってきました。休み時間にCさんが机に顔をつけて、『はあーっ』と大きなためいきをつきました。その姿を見たあなたはどんな声をかけますか？</p>	
	<p>3 各自で考えた言葉を発表し合う。 ・もう、気にせんでもいいやん。 ・次がんばろう。 ・元気だそう。一緒に勉強しようか。</p> <p>4 自分の心に響いた言葉をワークシートに記入する。</p> <p>5 二人組になり、ワークシートを交換し、自分の心に響いた言葉について話し合う。</p>	<p>・Cさんの気持ちになって考えさせる。</p>
まとめ	<p>6 心に響いた言葉をかけてもらった時、自分がどんな気持ちになったかワークシートにまとめる。 ・落ち込んでいた気持ちが明るくなれた。 ・勇気をもらった。 ・頑張ろうとやる気が出てきた。 ・ホッとして安心した。</p>	<p>・言葉が心に与えるポジティブな側面を意識させる。</p>

カ 先生の振り返り (次の実践に向けて)

- (ア) 生徒たちは言葉が心に与える影響を、自分自身の体験の中から思い起こし実感できたようだったが、言葉のもつ「魅力」についても感じさせる工夫が必要だった。
- (イ) 生徒にとって「ごめんね」を多用することで、他者との関わりをうまくやり過ごそうとしている自分に気づく機会となった。

キ 振り返りカード

振り返りカード 年 組 名前 ()		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	勇気や元気の出る言葉をかけてもらう体験をとおして、人の温かさを感じよう。	
感性を育む	言葉をとおして、人とつながっていくことを感じよう。	
想像力の育成	生活の中でのいろいろな場面で、相手に対する言葉のかけ方を考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

(3) 2次第3時

ア 本時のねらい

自分の気持ちや思いを伝えるためには、素直に自分の気持ちを言葉で表現をする必要があることを理解する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

2頭の恐竜の優しさに気づかせる。

(イ) 感性を育む

思いを伝えられなかった2頭の恐竜に共感させる。

(ウ) 想像力の育成

自身の生活を振り返り、伝えられなかった言葉を考える。

ウ 準備物 絵本『おれはティラノサウルスだ』、ワークシート

エ 先生の準備(事前の打ち合わせと教員研修)

(ア) 絵本『おれはティラノサウルスだ』を活用しての指導案の検討

・行為や行動の支えになっている心情をどのように読み取らせるかについて検討する。

(イ) 教員自身の、素直に言葉で表現できずに気持ちを伝えられなかった体験についてまとめておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 これまでの学習を振り返る。	・自分の心に響いた言葉を思い起こさせる。
展 開	2 絵本『おれはティラノサウルスだ』を読む。	・父親と母親がいかに子どものことを考えているかに気づかせる。
	3 言葉で気持ちを伝えられない2頭の恐竜の気持ちを考える。	・プテラノドンの子の優しさに気づかせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> プテラノドンの子はティラノサウルスと別れる時、どんな気持ちだったのだろう？ </div>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ティラノサウルスが元気になってよかったな。 ・ティラノサウルスだと嘘をついてごめんね。 ・ティラノサウルスと本当は仲良くしたかった。 ・本当はこんなかたちで別れたくなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プテラノドンの子にとって、ティラノサウルスが、かけがえのない存在であることに気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> ティラノサウルスはどんな気持ちで追いかけたのだろう？ </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくのためにいろいろやってくれる君の優しさをわかっていたんだよ。 ・「ありがとう。」と言いたかったんだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ティラノサウルスのプテラノドンに対する思いの深さに気づかせる。 ・2頭の恐竜にどのようなアドバイスをすればよいかを考えさせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 2頭の恐竜は、どうすればよかったのだろう？ </div>		

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・本当はお互いの気持ちが通じ合っているのだから、言えばよかったのに。 ・お互いの気持ちは伝えてはじめてわかると思う。 <p>4 絵本と同じように、素直に言葉で表現できずに気持ちを伝えられなかったことを思い出し、言えなかった言葉を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとちょっとしたことでけんかをしてしまい、気まづくなった時、「もうちょっと話そう。」と言えばよかった。 ・弟のものを黙って借りていた時、弟が一生懸命に探しているのに知らんぷりをしてしまった。あの時素直に「ごめん」と言えばよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを素直に言葉で表現することにより、分かり合えることに気づかせる。
ま と め	<p>5 コミュニケーションに必要なことは何かを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で人に対して言葉を掛ける時、何が大切かを考えさせる。

カ 先生の振り返り(次の実践に向けて)

- (ア) 言葉で自分の気持ちを素直に伝えるためには、自分の気持ちを素直に表現する心地よさを感じさせる必要がある。3次のストレスマネジメント体験やアサーション・トレーニングをとおして実感させたい。
- (イ) 生徒の実態を十分に把握し、絵本と同じような辛い体験をした生徒への配慮が必要である。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学 習 ・ 体 験 の 目 標 (め あ て)	自 分 の 振 り 返 り
感 動 の 体 験	うまく自分の気持ちを伝えられなかった2頭の恐竜の優しさについて考えよう。	
感 性 を 育 む	うまく自分の思いを伝えられなかった時のことを思い出し、今どのように感じますか。	
想 像 力 の 育 成	自分も相手も大切にしたい気持ちの伝え方について考えよう。	
全体を振り返った感想：		
先生から：		
家庭から：		

(4) 4次第1時

ア 本時のねらい

いじめの深刻さを認識しないで、からかいやいたずら等の遊び感覚でいじめる風潮がある。「軽い気持ち」が相手には「大きな痛み」になることを理解する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

- ・いじめられている生徒の辛さ、悲しさを理解させる。
- ・相手のことを思いやる気持ちを持ち、行動に移そうという気持ちを持たせる。

(イ) 感性を育む

- ・人に対する配慮や関わりが、対人関係を営む上で大切であることを理解させる。
- ・自分を大切にすることが、相手を大切にすることにつながることを実感させる。

(ウ) 想像力の育成

- ・いじめについて、これまでの自分を振り返ることから、いじめをなくすために、自分は何をするべきなのかを考えさせる。
- ・自分も他者も共にかげがえのない存在であることを実感し、いじめの抑止に積極的に取り組む姿勢を養う。

ウ 準備物 資料（朝日新聞 いじめられている君へ いじめている君へ 2006）

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

いじめに関する研修

- ・平成3年の東京地裁の判決文から、いじめをどうとらえるかを検討する。
- ・いじめに関する劇を練習し、BGMや小道具等の準備をする。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 本時のねらいと流れの説明を受ける。	・体育館で全員が話を聞く体勢が整うまで、静かに待つ等、教員がいじめに真剣に取り組むという姿勢を示す。
展 開	2 いじめについての劇を観る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>シーン(1) A子の教科書を借りたB子。なかなか返してくれないB子。授業の直前になってA子に返された教科書は破られていた。驚くA子。・・・</p> <p>シーン(2) 休み時間。A子の傍に近づいたB子。B子はA子に「キショイ」「きもい」「うせる」という言葉を投げかけて離れる。うなだれるA子。</p> <p>シーン(3) いらいらしているB子。A子だけを残し、他の生徒を集めたB子は「A子だけ仲間はずれにしよう」、「口をきいたらだめだよ」とこそ話をする。</p> <p>シーン(4) 国語の授業中。はさみを持っていないB子は、今まさに使おうとしているA子のはさみを強引に持っていく。B子は自分だけさっさと作品を仕上げてしまう。</p> </div>	・教師がいじめに関する劇を演じる。

<p>展開</p>	<p>3 いじめられていたA子の心情を綴った作文を聴く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>このような事は、私の学校生活の中で日常茶飯事のように起こっています。私の近くで「キショ」「キモッ」「うわっ・・・」とか言ったり、私がかで失敗したりすると異常に笑いたてます。一番いやだったのは、お気に入りのペンをたらいまわしにされた事。さらに、そのからかいは徐々に人数が増えていき、私のクラスでの居場所はなくなってきました。「嫌なことは嫌だと言えればいい。」といいます。そんなことは今の私にはできません。それこそいじめではないですか。学校へも行きづらくなってきています。</p> </div> <p>4 A子役を演じた教師の思いを聴く。</p> <p>5 劇を見た感想をワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆が誰かをいじめていたら、自分もみんなつられて一緒にその子をからかったりいじめたりしたかもしれないと思う・・・。いじめをしてはいけないのは当たり前だけれど、つられてやってしまういじめもあるので、自分の意志をしっかり貫いていこうと思った。 ・今日の劇を観て、実は自分の周りにはかなりのいじめがあることに気づいた。「いじめはよくない。」と自分や友だちは言ってるけれど、やっぱりそれは口だけ。実際のいじめの解決は、皆が直そうという意志をもたない限りは、とても難しいと思う。でも自分は少しずつでもいじめを止めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BGMを背景にA子役の教師がいじめられた心情を切々と語る。 ・心情を語り終えると幕間になる。 <ul style="list-style-type: none"> ・練習を重ねるたびに苦しくなった心情を生徒に聞かせる。
	<p>まとめ</p>	<p>6 『朝日新聞 いじめられている君へ いじめている君へ 2006』を読み、いじめられている生徒、いじめている生徒、いじめを見ている生徒のそれぞれの気持ちを考え、感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめられている人に問題はない、というのはそのとおりだと思うけれど、少し前にテレビでやっていたいじめについての番組の中でアンケートをとっていて、いじめられていると言っていた人が多かった。いじめはなくなるのかな。 ・いじめている人はよく、いじめる理由があるというが、いじめられている人には原因はないんじゃないかと思った。 ・自分がそういう場面に出合ったとしても、典子ちゃんを助けられるかどうかわからない。だけれど、はさみをとられた時、隣の子が「使う？」と聞いてくれるだけで、典子ちゃんは救われるということはわかった。

カ 先生の振り返り

自分が書いた作文を学級内で読むという取組の中で、「私は人のいやがることをしていた。」と述べた生徒がいた。作文にはいじめに対する思いが切々と語られていた。自分をしっかり見つめるよい機会となり、聞いている生徒にもその生徒の反省する気持ちが伝わったように感じた。それぞれの思いを伝えることのできる生徒とともに、その思いを受け止めることのできる生徒たちの育成に努めることの重要性を感じた。

キ 振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ()		
	学習・体験の目標(めあて)	自分の振り返り
感動の体験	いじめられている生徒の気持ちをどのように受け止めましたか。	
感性を育む	人に対する配慮やかかわりが、対人関係を営む上で大切であることを理解できたか。	
想像力の育成	『いじめ』に出会った時、あなたはどうしますか？	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

「小学校の時からいじめを受けていた」という生徒の話聞き、いじめに関する内容を授業に取り入れる必要性を感じていた。しかし、いじめを直接取り上げた場合、生徒にづらい思いを想起させてしまう可能性も考えられたので、人と人のつながりは本来温かいものであると感じさせる取組から進めたいと考えた。人と人がつながるためには、肯定的に自分自身をとらえること、相手の思いを共感的に聞くこと、自身の思いを素直に伝えること、感情をコントロールすること等が必要である。今回は言葉と感情に重点を置いたが、本実践をとおして、十分にコミュニケーション能力が育ったとは言い切れないが、コミュニケーションの大切さは感じてもらったように思う。

本取組を進めている時、いじめによる自殺が連鎖的に起こり、文部科学省が「児童生徒のいじめ問題に関する都道府県・指定都市生徒指導担当課長緊急会議(2006.10.19)」を開催し、学校におけるいじめ問題に関する基本認識と取組のポイントを提示した。そこで、本校でも学年会議において、いじめを受けたことのある生徒に配慮しながら、直接いじめを授業で取り上げることを決めるとともに、一時間の授業だけでなく、日々の生活の中で教師はいじめは絶対に許さないという姿勢をもって指導にあたることを職員間で確認した。

(2) 今後の課題

今後は、より一層コミュニケーション能力の育成を目指し、総合的な学習の時間、国語や英語等の教科とも関連させて取り組んでいく必要性を感じている。また、道徳の年間計画を再考し、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、お互いのよさを伸ばしながら、共通して守るべきものは遵守する態度を育てていきたいと考えている。

11 参考・引用文献

- ・秋田喜代美 編集『学校全体で取り組む“子どものチカラ”向上作戦 第3巻』教育開発研究所 2002
- ・朝日新聞社『朝日新聞連載 - いじめられている君へ・いじている君へ - 』
- ・安達昇 編集『みんなとの人間関係を豊かにする教材 55』小学館 1999
- ・廣岡秀一『朝日小学生新聞 - 言い方・聞き方学習教室』2006年7・8月
- ・星野欣生 著『人間関係づくりトレーニング』金子書房 2003
- ・廣岡秀一『朝日小学生新聞 2006.6.3～8.26 13回シリーズ』
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『平成10年度心の教育授業実践研究』1999
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『平成12・13年度心の教育授業実践研究 第3号』2002
- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『平成14年度心の教育授業実践研究 第5号 中学校編』2003
- ・池田香代子『世界がもし100人の村だったら』マガジンハウス 2001
- ・河合隼雄 編集『京都発しなやかな道徳教育』創元社 2005
- ・河村茂雄 著『グループ体験による学級育成プログラム中学校編』図書文化社 2001
- ・河村茂雄 著『教師のためのソーシャル・スキル』誠信書房 2002
- ・河村茂雄 編集『Q・Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド』図書文化社 2004
- ・國分康孝 総編集『構成的グループエンカウンター事典』図書文化社 2004
- ・宮西達也『おれはティラノサウルスだ』ポプラ社 2006
- ・岡山県人権教育推進委員会『人権教育の充実に向けた取組を総合的に推進するための方策について』2005
- ・大阪府人権教育研究協議会 編『自分を生きる 21』2003
- ・大阪府人権教育研究協議会 編『わたし出会い発見 5』2004